

事例紹介 1

# 子どもと保護者と保育者が共に育つ 「保護者サポートシステム」を構築

## 山口大学教育学部附属幼稚園（山口県・国立）

山口大学教育学部附属幼稚園では、20年前から保育参加を実施するなど、長期に渡る保護者支援に取り組んできました。その特徴は、子どもの成長と保護者の変容を見通した「保護者成長支援プログラム」をもっていることです。

### 「指導」ではなく、一緒に育つ関係へ

インタビュー

保護者支援の研究を進めた山口大学教育学部教授の友定啓子先生、さらに河野令二園長先生をはじめとした幼稚園の3人の先生がたに、研究と実践のポイントについてうかがいました。

### 子どもと保護者と保育者が ともに高め合う関係へ

**友定** 山口大学教育学部附属幼稚園が保護者支援に関する研究に取り組んだのは2002年。多くの親が子育てに不安を抱える状況が社会問題となっていたことがきっかけでした。

難しいテーマであるのは承知していましたが、この園では研究を始めた時点で15年近くに渡って保育参加を続けているなど、保護者と正面から向き合おうとする姿勢がありました。保育参加をはじめ、以前から取り組んでいた「保護者支援メニュー」の一つひとつを見直し、ねらいや手法

を見つめ直すというスタンスで研究を進めました。

**大森** 私たちが研究に前向きに取り組めたのは、もともと、「保護者と一緒に子育てに取り組んでいく」という意識があったからだと思います。そのベースには、子どもの成長は保護者抜きには考えられないという思いがあります。

**友定** 最初に先生がたに研究テーマを提案した際、「保護者を指導するのではなく、一緒に育っていくという視点で研究をしたい」という意見が返ってきました。それで、保育者と保護者が、子どもを中心に置いて支え合う関係でいたいという思いを込めて、「共に育つ—子どもと親と保育者と」という研究テーマにしました。

**中村** 毎日の保育を振り返っても、「いつも大変ですね」「がんばってください」といった保護者の言葉によって前向きな気持ちになることは

多いです。研究を通して、ともに高め合っていく関係の良さをさらに実感しています。

### 保育参加の回数を重ねるごとに 子どもの気持ちを 理解する保護者に

**友定** 研究で最初に取り組んだのが、園での3年間を通じた保護者の変容をとらえることです。保護者とのやり取り、保護者へのアンケート調査、また保育参加の終了後に行われるミーティングの記録などを検討し、保護者の抱える悩みや課題には、子どもの年齢や時期に応じて一定の傾向があることがわかりました。それをもとに各時期に必要な支援内容

や保育者の配慮をまとめたものが、保護者成長支援プログラムです。（4ページ・図1）

**大森** それまで保護者の意識変化は、保育者それぞれが経験的にとらえているだけでした。それを見えるかたちに表したことで、3年間を通してどのように保護者と向き合っていくといいか、見通しをもてるようになりました。

**中村** そうですね。例えば、入園してすぐの時期は保育者に対して一方的に要望を話される保護者が少なくありませんが、しだいに視野が広がって変化してきます。そうした道筋が明らかになり、「この時期は話を聞いてあげることが大事だな」などと、自信をもって対応できるよう

になったと思います。

**友定** 保育者の中で保護者へのかかわりが共有できたことも、大きなプラスでしょう。若い保育者も、見通



山口大学教育学部教授  
友定啓子先生

2001年から2004年まで山口大学教育学部附属幼稚園の園長を務める。



山口大学教育学部教授  
園長  
河野令二先生



研究主任  
大森洋子先生



教務主任  
中村万紀子先生

図2 保護者の成長過程（保護者サポートシステムより）

「保育理解」「幼児理解」「保護者自身のあり方」という3つの視点から保護者の成長をとらえた図。子どもの年齢が上がるにつれて、右上の方向に変化していく。

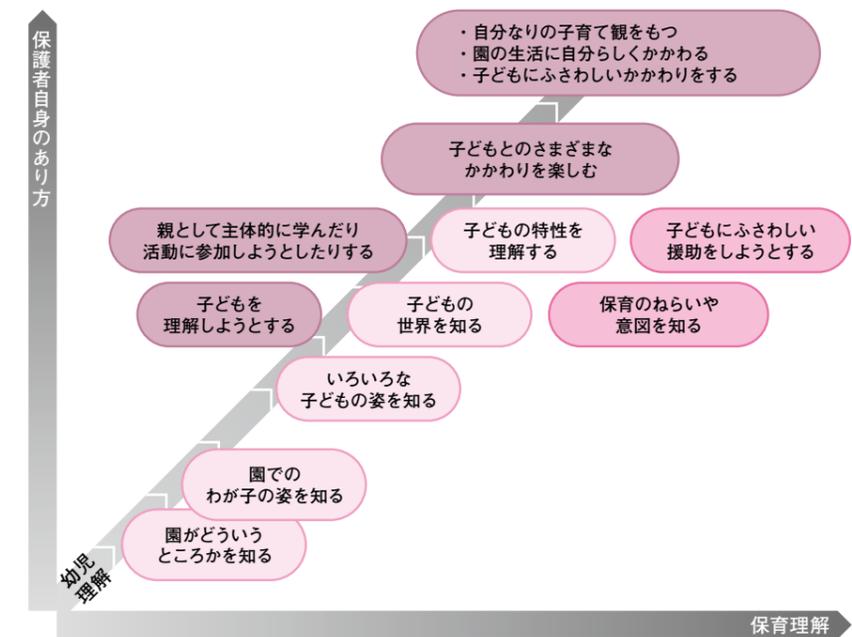


図1 保護者成長支援プログラム

3歳児4月～5月上旬の一部。3～5歳の教育課程の各時期に合わせて、保護者の姿や支援内容が詳しく書かれ、保育者間で共有されている。

<b>保護者の姿</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活の具体的なことについてわからず、不安が多い。</li> <li>自分の子どもが園生活についていけるか不安になる。</li> <li>親同士の関係づくりで不安と緊張がある。</li> </ul>
<b>保育者の配慮</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者の緊張を和らげるように接する。</li> <li>保護者との信頼関係を築く（帰りのあいさつのときに、その日あったことや保育者が感じたことを一人ひとりに話す）。</li> <li>子どもが何かして遊ぶというよりも、初めての集団生活で安定して過ごせることや慣れていくことがまず大切であることを、保護者が理解できるように話す。</li> </ul>
<b>保護者支援内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎朝、子どもとともに保育室に入っていくことで、生活の雰囲気を感じ取ったり、子どもの幼稚園での生活の仕方を知ったりする。</li> <li>子どもと保育者に任せようという気持ちで、送り出そうとつとめる（子離れする）。</li> </ul>
<b>具体的な活動内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【通信・講話】園だより、保健だより、園長講話</li> <li>【相談・懇談・茶話会・ミーティング】学級担任の話、森の木陰のティータイム</li> <li>【保育活動への参加】保育参加オリエンテーション</li> <li>【保育環境づくり】花の水やり</li> </ul>

「保護者サポートシステム」（フレーベル館 2004年）より



しをもって保護者に接することができるようになりました。その中で保護者の変化を促す重要なものが、保育参加でしょう。保育参加の回数を重ねるにつれて、保護者は目に見えて変容していきます。(5ページ・図2)

**河野** 「子育ては大変だ」と思われている保護者が大半でしょう。かといってひとりで思い悩まず、そもそも子育ては大変なものだと開き直ってしまえば、かなり気が楽になります。そのように発想を変えるうえで、自分の子どもだけでなく、他の子どもを見るのがとても大切です。子どもたちを比較するのではなく、一人ひとりのいろいろな見方や感じ方を獲得して、それをほかの保護者と共有できたときに、保護者は大きく変わるのではないのでしょうか。

### 保護者としての成長は子どもと楽しく遊んだ結果

**中村** 保育参加は、園の保育のねら

いを伝えるのにも有効です。特に、私たちの園の特色である子どもが自由に遊びを選択する保育は、ねらいを伝えるのが難しく、ときには遊んでいるだけと見られてしまいます。実際に保育に参加してもらえば、理解がより深まるだろうという考えが、そもそも保育参加を導入した原点です。

**大森** 子どもに対する考え方を広げたり深めたりするのも、目的のひとつです。保護者は、子育てを「頭」で考える傾向があります。例えば、子どもが親の言うことを聞かないときに、「なぜわからないのか」と、大人の頭で考えて、腹を立ててしまったりします。これは、子どもには子どもなりの考え方や感じ方があることを理解していないのが原因でしょう。その点、保育参加は子どもの世界を体感して理解するうえで有効と考えています。

**中村** 子どもの世界を理解していないと、気持ちの面でギャップが生じてしまいます。例えば、幼稚園で作った色水を持ち帰ってきたら、思

わず「捨てなさい」と言ってしまう保護者もいるかもしれません。でも、実際に園で一生懸命に作っている姿を見て、「こんな思いで作っているんだな」と気づけば、その後の受けとめ方も変わってくるのではないのでしょうか。

**大森** 3歳児の保護者の中には、「自分の子どもがこうだから、ほかの子ども同じだろう」と考えるかたも少なくありません。自分の子どもしか育てたことがないので、これは当たり前だと思います。保育参加が子どもの見方が広がるきっかけになれば良いと思っています。

**中村** 保育参加は、保護者の成長を促すと同時に、保護者が保育を楽しめる時間でなければならないとも考えています。子どもと一緒に楽しく遊んだ結果、保護者として成長するというのが理想ですね。

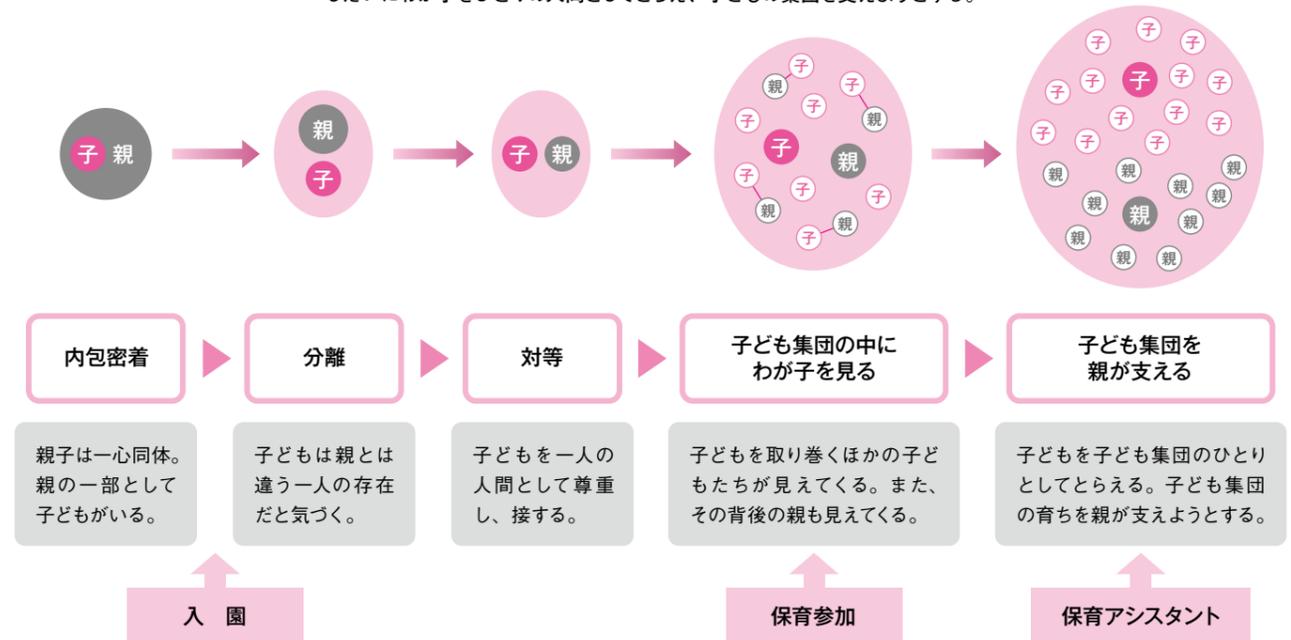
**友定** 保育参加が本当に実のあるものになるかどうかということでは、子どもと一緒に遊んだあとのミーティングも非常に大切です。

**中村** 確かにミーティングは、子育て

図3

親子関係の変容過程(保護者サポートシステムより)

保護者の視野が広がるにつれて、親子関係が変化する様子を図式化。入園時、親子関係は一心同体だが、しだいにわが子をひとりの人間としてとらえ、子どもの集団を支えようとする。



てについてじっくりと話し合う大切な機会となっています。ふだんはなかなか聞けない保護者の本音が聞けることも少なくありません。保育者と保護者の1対1ではなく、少数のグループというのも良いのでしょうか。実際に保育を見てもらったあとですから、こちらとしても保育のねらいを説明しやすいという良さもあります。

### 園と保護者の関係が強まって地域の子育て力の向上へ

**友定** 保育参加の良い影響のひとつには、幼稚園と保護者の協力関係が強まり、PTA活動が活性化していることも挙げられます。

**河野** 「ピーマン」r.の会」と称する父親だけの集まりも活発です。これも家庭と幼稚園の距離の近さが背景にあるのかもしれませんが。

**中村** 卒園後も、工作に使う空き箱を持ってきたり、行事などのボランティアを申し出てくださったり、園と保護者のつながりは強いと思います。これは保護者が園の方針を理解し、共感してくださっているからだと考えています。

**友定** 研究と実践を通して、一人ひとりの保育者が保護者との関係について、じっくりと考えるようになったのも大きな成果と言えます。大森先生と中村先生は、保育者として保護者支援を行うにはどのような気持ちが必要だと考えていますか。

**大森** まずは保護者に興味をもち、好きになっていくことから始まるのではないのでしょうか。これは決して難しいことではないと思います。一人ひとりの子どもを理解するには、その背後にいる保護者を知ることが当然必要になるからです。その

ように、子どもを通して保護者とながっていくことを大切にしています。

**中村** 心を開いて保護者と話すことが必要だと思います。毎日送迎時に会っていると、「最近、元気がないな」などと感じることはありません。そういうとき、ちょっと声をかけてみるだけでも関係は変わっていくと思います。

**友定** 保護者と対等な関係を築いていくことが、子どもの成長と保育の充実につながると、双方が実感できることが大切です。ここで子どもたちとかわった保護者が、地域の子育て活動に積極的に参加しています。このようにして、地域の子育て力の向上にもつながっていくことは、とてもうれしいことです。

## 「保護者サポートシステム」における保育参加

実践

山口大学教育学部附属幼稚園の「保護者サポートシステム」は、実際にはどのように行われているのでしょうか。2009年10月に行われた3歳児の2回目の保育参加を見学させていただきました。

### 「見るだけ」ではなく「一緒に遊ぶ」

「保護者サポートシステム」の柱の1つとなっている取り組みが保育参加です。園が保育参観から保育参加に変更したのは、1986年にさかのぼります。その他にいろいろな保護者向けメニューがあり、これらを保護者の状態に合わせて関連づけて実施する体制にしたそうです（図4）。

3・4歳児の保育参加は、すべての保護者を対象に、学期に1回、年3回行います。5歳児の保護者にはその日の保育のねらいを説明し、役割をもった「保育アシスタント」として参加してもらいます。野外活動やクッキングなど、保護者が入ることによって保育が充実していくものを、年間指導計画の中から選んでいます。5歳児の保育参加は3学期に1回行います。

保育参加の実施期間は1週間ほどで、各日3～5名が参加。今回、見学させていただいた3歳・花組の保育参加には4名の保護者が参加し、

午前中いっぱい、保育室や園庭で子どもと一緒に遊びました。

この日も子どもたちは保育室や園庭で自由に遊んでいます。保護者のみなさんは慣れた様子で子どもたちの輪の中に入り、一人ひとりと言葉を交わしたり、遊びを支えたりして楽しんでいました。子どもたちも、友だちのお母さんと遊ぶのを喜んで

いるようです。1学期の保育参加に比べると、子どもと保護者の双方の様子が大きく変化し、教務主任・花組担任の中村万紀子先生は次のように話します。

「1学期は子どもたちがなかなか落ち着かず、少しぎくしゃくした様子も見られたのが、『たった半年で子どもの姿がすごく変わった』と、

### 図4 保護者サポートシステムの実践

5つの視点から現場での取り組みを充実させて、保護者の成長をサポートしている。

#### 1 園の方針や考え、保育内容などの伝達

- ・通信（園だより、保健だより）
- ・講話（園長講話、副園長講話）

#### 2 積極的に学べる場や機会の設定

- ・講演会（年2回程度）
- ・講座（子育て講座・年4～5回）

#### 3 気軽に話せる関係作りと日常的懇談

- ・日常的相談・懇談
- ・学級懇談（年3回）
- ・個人懇談（2学期末）
- ・教育相談（6月下旬）

保護者サポートシステム

#### 4 子育てを話し合う場や機会の設定

- ・茶話会（年4～5回）
- ・ミーティング（保育参加、および保育アシスタントの終了後）

#### 5 保育参加や保育体験の場の設定

- ・保育参加（3・4歳の保護者は各学期1回。5歳児は3学期に1回）
- ・保育アシスタント（5歳の保護者。保護者1人につき3回程度）

### 保護者の声

#### 守永果奈さん（3歳児）

○1回目の保育参加では娘がまだ園に慣れておらず、私にくっついて回っていました。それが今回はほかのお母さんや友達と楽しそうに遊ぶのを見て成長の早さに驚きました。遊びを通して相手の気持ちを感じ取ろうとする姿など、家では見せない一面が見られたのがうれしかったです。先生がたが子どもたちとじょうずにかわるのを見るのも、子育ての参考になります。



#### 高杉佳子さん（3歳児）

○娘が保育参加をととても楽しみにしていました。幼稚園でお母さんと遊ぶという体験がうれしいようです。子育てについて悩むこともありますが、保育参加を通して子どもが楽しそうに過ごしているのを間近に見ると、安心して幼稚園に送り出すことができます。さらに、ほかのお母さんと知り合って子育てについて話をする貴重な機会にもなっています。



※（ ）内は子どもの年齢



保護者の成長支援で園に求められることは、成長の場と機会を提供すること。保育参加は、保護者がそれぞれのニーズとベースで成長することを支援している。

保護者は口をそろえて驚いていました。保護者にとっても初めてだった前は、どのように子どもたちと遊んでよいか分からずに困惑されたかが多かったんです。でも、2回目となるとずいぶん慣れて子どもの遊びの世界に自然に溶け込んでいたようです」

### 「自分の子ども」から「園の子どもたち」へ

保育参加の終了後は、保育室で参加者と担任の先生によるミーティングが行われます。話し合われるのは、その日の子どもの様子や感想、子育ての悩みなど。例えば、この日参加した保護者の1人は、1学期のころ、子どもが毎朝泣いて園に行きたがらず、とても悩んでいるとき、ほかの

保護者が話を聞いてくれ、「うちもそうだった。じきに慣れるわよ」と言ってくれたことが心強かったという話をされました。

「ときには、保育者が話すより、ほかの保護者による経験を交えたアドバイスの方が心に届くことがあります。保育参加とその後のミーティングは、保護者同士が情報を交換し、支え合う場としても機能しています」（中村先生）

入園当初は、保護者の多くが「自分の子ども」しか見えない状態ですが、保育参加の回数を重ねるにつれて、「クラスの子どもたち」「園の子どもたち」へと視野が広がっていくそうです。（7ページ・図3）

自分の子どもの仲間としてほかの子どもを受けとめることで、園に豊かな人間関係が広がっています。

### 山口大学教育学部附属幼稚園



○自然を生き、子どもの動線を考え、動きを豊かにする環境の構成が特色。園庭では年齢やクラスの異なる子どもたちが一緒になってのびのびと遊ぶ。「保護者サポートシステム」を通じた保護者支援に力を入れ、PTA活動も盛ん。

園長 河野 令二先生

所在地 〒753-0070  
山口県山口市白石3丁目1-2

園児数 160名（3～5歳児）